

# 吉田区 地域振興策 計画 農業振興

第三回 地域振興策検討委員会向け



吉田区クリーンセンター検討委員会

平成27年7月26日

# 農用地保全の必要性

千葉県農業振興地域整備基本方針より



- 農用地は食糧安定供給という役割はもちろんのこと、健全な農林生産活動を通じて洪水の防止・土砂流出の防止・水源のかん養・景観の維持・都市住民の健康的余暇活動の提供など多面的且つ公益的な機能を発揮しており、これらの機能を良好に保全していくことが重要である。農振法受けて 昭和45年3月策定

# 千葉県農業振興地域整備基本方針



## ＜農用地保全の基本的方向＞

- 従来は集落が農用地の管理機能を担っていたが、農村の混住化や農家の減少によりその機能が低下してきている。そこで集落機能補完のため、耕作放棄地の発生抑制・再生を推進する。さらに農業者だけでなく、**地域住民やNPOなど多様な組織が参画する地域共同活動**を行う。

印西地域 (印西市)	印西市印西地域のうち都市計画法の市街化区域等を除いた区域	総面積 3,586ha (農用地面積 1,753ha)
印旛地域 (印西市)	印西市印旛地域のうち都市計画法の市街化区域等を除いた区域	総面積 4,200ha (農用地面積 1,914ha)
本埜地域 (印西市)	印西市本埜地域のうち都市計画法の市街化区域を除いた区域	総面積 2,234ha (農用地面積 1,281ha)

H22.4.1現在

印旛沼二期事業の農業用用水排水施設の整備・更新を実施する。

農業振興地域の整備に関する法律  
(昭和44年7月1日法律第五十八号)

# 印西市農業委員会農地移動適正化あっせん制度

平成26年11月28日改定



農振法（昭和44年法律第58号）の目的：**大型農業機械が使いやすいよう土地改良工事を行う、若い人が農業を行いやすいよう応援する、など**

- （目的）農用地等に関する権利の取得が農業経営規模の拡大、農地の**集団化**、その他農地保有の**合理化**に資することを目的とする。

- （あっせん管理業務）

あっせんを行う農用地の管理

農用地等の権利を取得させるべき者の管理

あっせんの順位の管理

あっせん候補者名簿の作成と管理

あっせんの申出等受付・処理業務

あっせんの適否決定

あっせんの相手方となるべき者の選定

選定調書の作成と管理

あっせん委員の指名等

農地移動適正化あっせん台帳作成と管理

事業計画及び報告等

- 新規就農希望者（経営移譲による就農を除く。）である場合の特例とは？

1 町 ≒ 1 ha

1 ha = 100a

1 a = 100m<sup>2</sup>

稲作基準：200aから

# 一般市民の声



- 今の時代、都会でサラリーマンに疲れた人、通勤電車で毎日通う無機質なコンクリートに囲まれた生活は本当の人生なのかと疑問を持つ人、対人関係に疲れた人、病気がちで田舎の生活がしてみたい人、人に使われるのがイヤになった人。いろいろな理由がありますが、田舎で自然に囲まれて農業をやりたいと思う人が多くなっています。

# 吉田区の悩み



長期的対策  
(振興策)



- 人口減少対策？
- 農業振興対策？

# 吉田区 人口推計 (1/2)



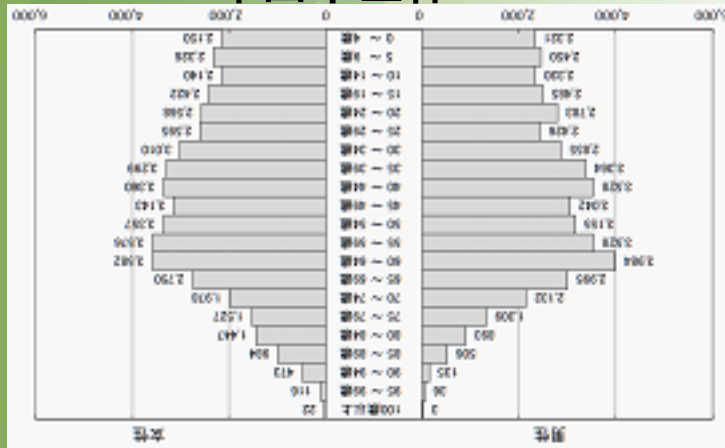
※2010 データ：人口統計ラボより



2025には？



印西市全体



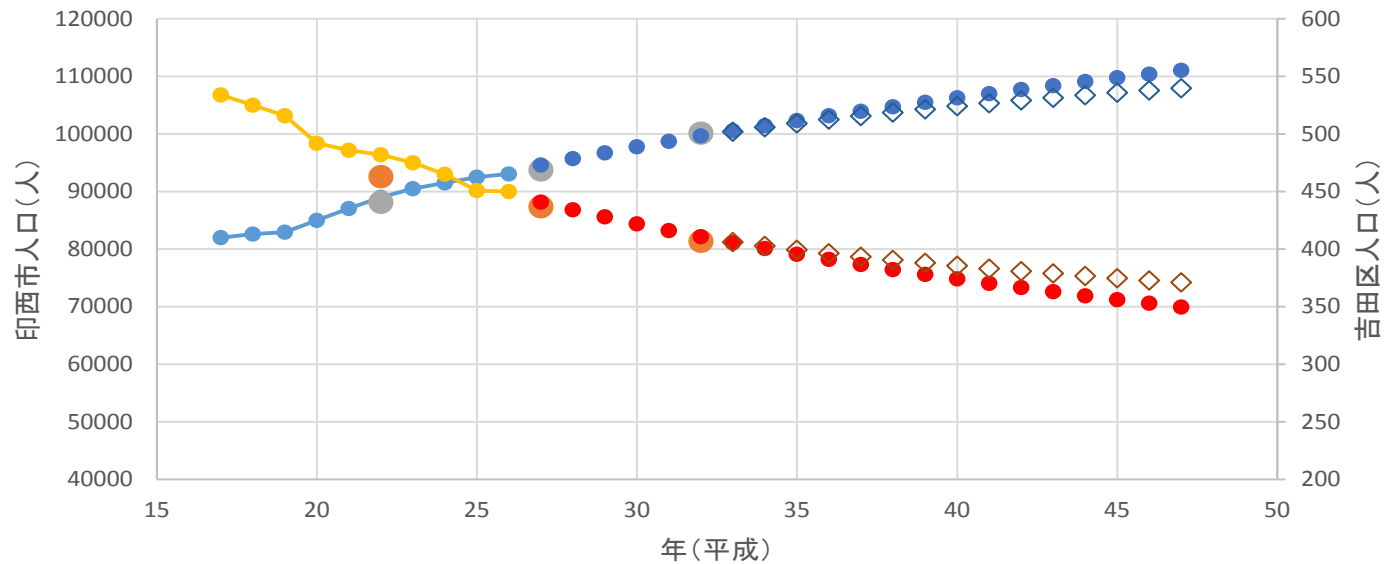
- 2010人口457人が  
2025年には350人  
程度に減少？

※2013 データ：データいんざいより

# 吉田区 人口推計 (2/2)



印西市と吉田区の人口



- 印西市(市総合計画推計)    ● 印西市(実績)
- 吉田区(市総合計画推計)    ● 吉田区(実績)
- 印西市(推計①)
- 吉田区(推計②)
- ◇ 印西市(推計②)
- ◇ 吉田区(推計②)

- 印西地区環境整備組合のご協力にて作成されました。
- Database : 印西市総合計画推計、平成22年国勢調査速報値と市推計値



# 新規就農者の心得



- 農業を新規でするには、どのくらい必要なのか？資金は、2千万円位必要。300万円程度の資金では、諦めた方がいいと思う。中型のトラクターがいくらするか？ハウスの中で使う小型が150万円から、広い畑を耕すものは500万円（ベンツ並）です。その他、軽トラック、ハウス、暖房機、動力噴霧器（農薬散布）、土地、倉庫、作業場、肥料、農薬、種子、鎌、クワ、何でもお金がかかります。年間稼働時間少ないので、高価格機械は、始めは先輩農家に貸してもらえばいいと思っているあなた。悲しいかな、使う時期は一緒になかなか貸りられません。
- サラリーマンは、社長や上司に使われて、自分の思ったとおりに出来ない。農業だったら人に使われることなく、自分でやりたいように出来る。なんてすばらしい仕事。ここに落とし穴があります。確かに人に使われることなく、自分で計画を立てて作業できる。自分で計画を立てるとは？今日の作業、1週間、1ヶ月、半年、1年、次年度、の事を自分で考える能力。しかも、気象条件、地域の行事、自分の体調、植物の生育状況、病害虫の発生状況など多岐を考え計画変更していく必要がある。「病気が発生しているけど忙しい、農薬かけるのは明日でいいか」なんて思う人は、サラリーマンを続けた方がいいかも。（それなりの資質が求められます）
- 農業は1人では出来ない。夫婦2人で100%出来ていた作業は、1人だと20～30%しか出来ない。2人だと作業がはかどるし、能率も上がる。旦那さんだけ農業したくて、奥さんがしたくない場合、「俺だけ農業するからいっしょに田舎にいこう」と説得しても先は見えていない。家族の理解がないときは、考え直すか、説得に時間をかけた方がいい。
- 農業するんだったら、自分で何でも出来ない。水道の水が漏れ、業者を呼ぶ人には農業は無理。作物を育てるために、水道工事、ハウスの修理、トラクターの整備点検、木材の加工等、初歩的なことが一通り出来ない、金がいくらあっても足りない。自分の経営を把握するため（本当はいくら儲かっているの）と、節税等のために農業簿記をつけた方がいい。そのためには、簿記、パソコンの操作を知ってないと。市町村や県から資金を借りるためには、簿記をつけることが条件になります。もし記帳なしで、検査が来たら大変な事になります。
- 田舎のせまい農業社会の中で生活していくためには、地域の行事等に積極的に参加する必要があります。都会以上に人間関係は複雑かもしれません。この事は本人だけでなく、家族にも当てはまり、ご婦人の会も数多く存在します。このような会に参加することは大変ですが得る物は大きいと思います。参加しなかった場合失うものは、参加して得る物よりも恐ろしいほど大きいと思います。若い場合、青年団、消防団等に参加して地域を支えていく必要もあります。

# 良くある現行対策



- IターンUターン希望者向け説明会開催
- 農業未経験者向け，2年間農業施設で研修してその間は，15万円程の給料を支給する市町村もある。
- その後は，町内の住居や土地を斡旋。
- 低金利の融資。
- 農協や県が農業の指導。
- 2年間は失敗しても給料もらえるからリスク少。3年目からは，自力でいかななくてはなりません。

# 実態把握できていますか？



- 空き家Database？
- 耕作放棄地Database？
- 離農希望者Database？
- 印西市農業委員会農地移動適正化あっせん制度機能していますか？
- 耕地整理、目に見える進捗はありますか？
- 未婚男女の実態？
- 御婿さん、お嫁さんを必要とする農家さんList
- 世話役さんなど具体的支援実態ありますか？
- 農業振興の言葉は聞き飽きるほど一般化していますが、遅々として進まない感あり。推進実態はありますか？

# 理想的な振興策



- 儲かる農業、美味しい事業へ。
- 個人経営から集落営農（法人化・集積化）へ転換。
- 例えば吉田株式会社が一括事業推進。

**Database一元管理（就農世帯、空き家、耕作放棄地、離農希望者、未婚男女、等）**  
**各種斡旋業務（新規就農者、研修、農地斡旋、空き家斡旋、移住、援農団体窓口、**  
**援農NPO窓口、オーナー制の運営、世話焼き、婚活イベント、お見合いパーティー、等）**  
**金融支援（研修助成金、無利子就農支援貸し付け、など）**  
**農業技術指導（県立農業大学と連携）**  
**共同農機具、レンタル**  
**二次加工産品開発・生産**  
**観光農園運営（クラインガルテン、もぎとり等）**  
**土地基板整備推進**

**原資は基幹振興施設（道の駅など）収益を当てる。**

## <その結果>

- 市民の財産である田園風景・里山維持、朝採り食材がスーパーに並ぶ。
- 心豊かで名実ともに日本一住みたい街、印西市の実現に寄与出来る。

# 耕地整理が進まない理由は？



# 八千代市が行動した事例



- 農振法を受けて行政が早期に条例整備。
- それに付随し農業振興制度を準備。
- 農業振興に必要な施設に積極的投資。
- なによりも時の為政者、行政、市民の理解と支持が大きいこと。

# 根拠法令の整備



- 農業振興地域の整備に関する法律、農業経営基盤強化促進法、八千代市農業近代化資金利子補給
- 条例及び同施行規則、八千代市農業災害対策資金利子補給金交付要綱

・昭和36年に農業近代化資金制度等の発足以来、農業者が農業の近代化を推進するために、必要な資金を貸し付ける金融機関に対して利子補給することにより、農業経営の改善・安定を目指している。

・平成5年「農業経営基盤強化促進法」が改正施行され、経営規模の拡大や生産方式の合理化等経営の改善を図ろうとする農業者（経営体）に対する支援措置が強化された。本市においては、「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」を策定し、意欲ある農業者（経営体）の育成を目指している。

# 具体的な事業のやり方、手順、詳細



- 平成21年度に実際に行ったこと:農政審議会の開催、県農林振興センター主催の関係会議への出席、農地の貸し借り(利用権の設定)、認定農業者の認定・再認定事務、資金融資に関する事務、男女共同参画、女性の起業支援、食育の推進、農業振興地域の見直し。
- 平成22年度に計画していること:農政審議会の開催、県農林振興センター主催の関係会議への出席、農地の貸し借り(利用権の設定)、認定農業者の認定・再認定事務、資金融資に関する事務、男女共同参画、女性の起業支援、食育の推進。
- 意図 (何を狙っているのか)  
    宮農・経営支援体制の強化



# 得られた成果

## (明確な指標管理の例)



	平成20年度	平成21年度	平成22年度
農家総数	941	941	941
利用権設定件数	26	19	28
融資等の相談件数	2	3	5
認定農業者の認定件数	63	64	67
認定農業者の再認定件数	6	1	13

# 事業のコスト



		単位	20年度	21年度		22年度	
			実績	計画	実績	計画	
事業費 (A)	財源内訳	国	千円	0	0	0	0
		県	千円	22	317	24	16
		地方債	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	966	1,317	917	993
		その他	千円	3,580	10	10	10
	主な事業費の内訳			農政審議会委員謝金127千円 旅費・需要費103千円 役務費 等17千円 負担金253千円 補 助金497千円 委託料3570千円	農政審議会委員謝金155千円 旅費・需要費193千円 役 務費等39千円 負担金253千 円 補助金995千円	農政審議会委員謝金71千円 旅 費・需要費149千円 負担金253 千円 補助金425千円	農政審議会委員謝金141千円 旅費・需要費123千円 役 務費等15千円 負担金250千 円 補助金488千円
人件費(B)		千円	29,060.6	26,693.8	32,040.1	31,755	
トータルコスト(A)+(B)		千円	33,628.6	28,337.8	32,991.1	32,774	

# 事業の評価(S E E)

評価事項	評価区分	理由
事業目的が上位の施策に結びついているか？	結び付いている	営農・経営支援体制の強化の推進により、農業経営の安定が図られており、上位施策（「農業経営体の育成」）に結び付いている。
すでに所期目的を達成しているか？	達成していない	農業経営の安定を図るため、継続的に行う必要がある。
民営化で目的を達成できるか？	可能性はない	市が主体となって農業振興を実施しているため。
「対象」・「意図」の設定は現状のままで良いか？	現状のまま でよい	農家に対する営農・経営支援体制の強化により、農業経営の安定が図られる。
今後、有効性や効率性を向上させる可能性はあるか？	可能性がない	市が主体となって農業振興を実施しているため。
この事業の今後の方向性	現状のまま 継続	農業者の高齢化や減少，農産物価格の低迷により，農業経営はますます厳しい状況におかれている。農業経営の安定化が図られるよう各種施策の周知・活用を通じて，国の目指す担い手（認定農業者）だけでなく，多様な担い手の確保・育成に努めていく必要があると考える。今後も常に農業情勢を視野に入れながら，関係機関との連携を密にし，事業を進めていきたい。

# 八千代ふるさとステーション



- 平成9年7月に、千葉県都市農業対策事業の適用を受け八千代市が農業振興施設としてオープンしました。**千葉県で3番目の道の駅**です。
- 八千代ふるさとステーションは、地元でとれた新鮮な野菜などの農産物を紹介。また、消費者と農業生産者のふれあいの場として、八千代市の農業や農村をアピールし、**農業の活性化を図るための施設**です。

# やちよ農業交流センター



## <施設概要>

### ☆研修室

農業者に対する研修会、市民向けの野菜栽培講習などが行われます。

### ☆調理実習室

農業者向けの農産物の加工講習、市民向けの市内農産物を使った調理実習などが行われます。

### ☆情報・交流（喫茶・休憩コーナー）室

市内農産物を使った軽食を提供します。

### ☆農産物・加工品販売所

市内農産物で製造した加工品などを販売します。

### ☆農産物加工所

市内農産物を使った加工品を製造します。

### ☆ふれあいモール、ふれあい広場、ふれあいの森

農業振興を目的とした催し物等を開催します。BBQ等



- この施設は、農業への市民の理解と関心を深め、農業者の経営意欲の増進や、知識・技術の向上を図り、農業の振興に繋げることを目的としています。

# 水道普及率

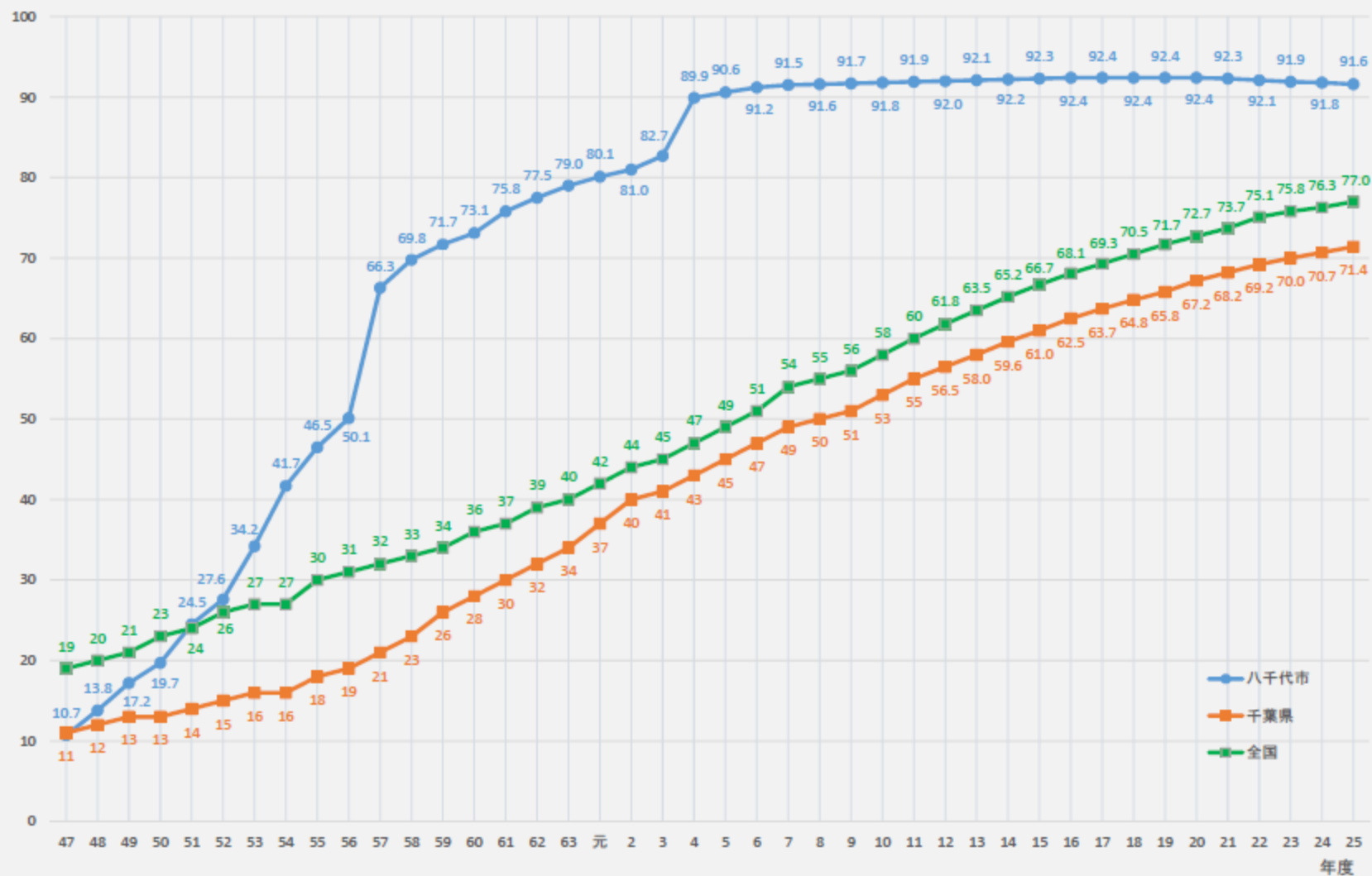
(平成23年3月31日現在) 単位:%

順位	市町村名	指標	備考	順位	市町村名	指標	備考
-	千葉県	94.7					
1	八千代市	101.4		28	我孫子市	96.1	
2	長南町	100.1		29	長生村	96.0	
3	浦安市	100.0		30	富津市	95.3	
4	木更津市	100.0		31	南房総市	95.0	
5	館山市	99.7		32	長柄町	94.7	
6	鋸南町	99.6		33	白子町	93.8	
7	大網白里町	99.5		34	いすみ市	93.7	
8	銚子市	99.3		35	九十九里町	92.9	
9	四街道市	99.2		36	大多喜町	92.8	
10	君津市	99.2		37	松戸市	92.7	
11	鴨川市	99.2		38	酒々井町	92.7	
12	袖ヶ浦市	99.1		39	市原市	92.3	
13	市川市	98.9		40	栄町	90.5	
14	船橋市	98.8		41	匝瑳市	84.5	
15	東金市	98.6		42	白井市	84.0	
16	習志野市	98.6		43	東庄町	83.8	
17	勝浦市	98.5		44	旭市	83.3	
18	御宿町	98.4		45	富里市	82.6	
19	睦沢町	98.2		46	成田市	81.4	
20	流山市	98.1		47	神崎町	80.8	
21	柏市	97.8		48	印西市	79.4	
22	多古町	97.3		49	香取市	78.9	
23	千葉市	97.3		50	横芝光町	78.8	
24	一宮町	97.3		51	鎌ヶ谷市	76.3	
25	佐倉市	96.9		52	山武市	70.6	
26	茂原市	96.5		53	八街市	56.2	
27	野田市	96.3		54	芝山町	20.6	

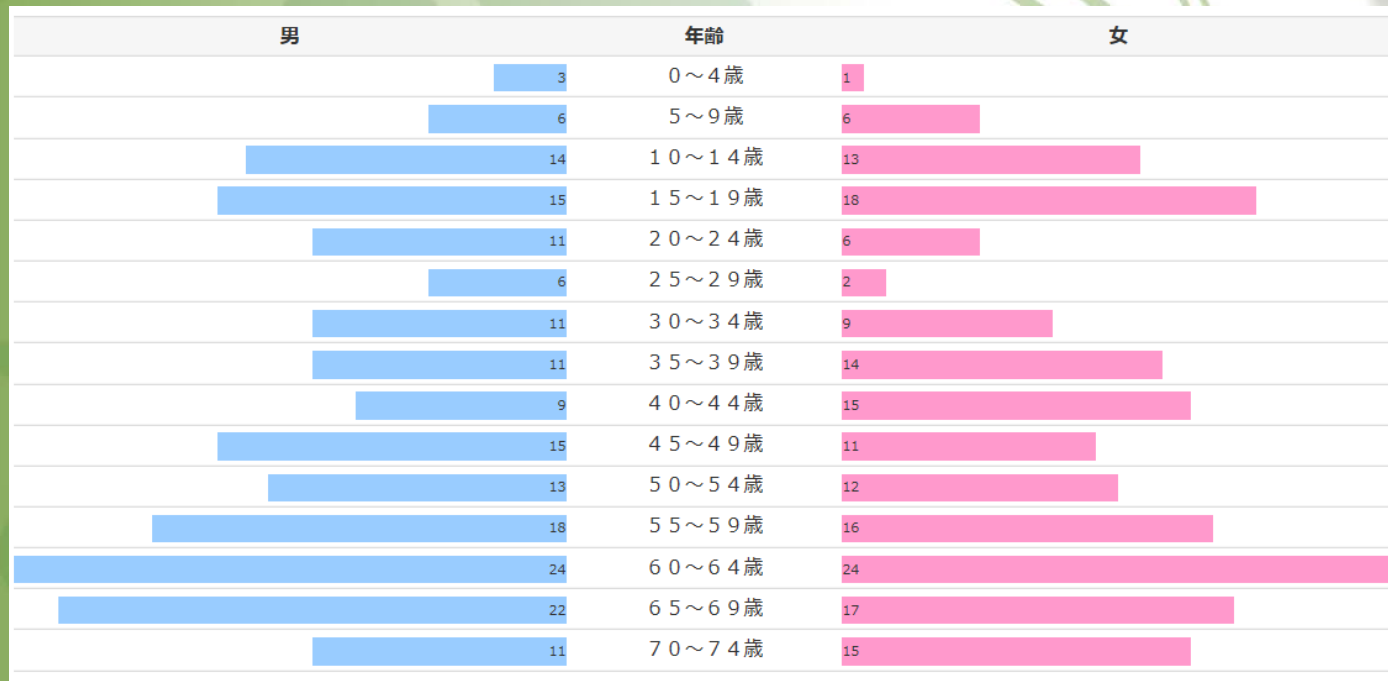


## 下水道普及率の推移

普及率(%)



# 八千代市保品の人口構成



世帯総数：133世帯

人口：488人

- 新川を挟んだ対岸の部落の現状です。



# 農業振興地域整備基本方針

千葉県（昭和45年3月策定）



## ＜生活環境施設の整備の必要性＞

- 本県の農村地域では、兼業化、混住化の進展に伴う生活様式や住民意識の多様化が見られ、農業従事者の減少や高齢化とともに集落共同活動の維持、担い手の確保が困難になりつつある。農業の担い手として認定農業者を中心とする個別経営体や組織経営体などによる高生産性農業の持続的発展を促進するためには、今後の集落人口を確保する必要がある、社会基盤の整備として生活条件の整備が重要である。このような状況の中で、交通網の整備による交通便益の増進、快適な生活のための汚水処理施設、農村文化交流のための集会施設や活性化施設、田園空間での憩いの施設としての農村公園などの整備を促進し、農業従事者の福祉の向上、健康増進、文化交流活動を助長し、定住条件の整備による農村地域の活性化を図り、あわせて次世代を担う農業後継者の確保に努める。
- 45年前に頭の良い人達が指針を示しています。

**永続的 農業世代交代  
のしくみを造ることを  
提案します**

